



期間限定、Adidas発電所 始動！ ～ネーミングライツ（命名権）の手法で～

第二発電所の電気は、本年3月よりみんな電力（東京・世田谷区）へ供給されています。

同社のホームページENECT編集長平井有太氏が、世界的スポーツブランド、アディダス社等の協賛を得て11月22日から東京・高円寺にて個展を開くにあたり、アディダス社が当社第二発電所の命名権を買取り、アディダス発電所として期間中の会場の電力を供給することとなりました。

個展のメインテーマは「電力」。国内で初めて、電力の供給権を最先端のアート作品として扱うという前衛的な取り組みで、当社発電所の理念や取組みが評価された企画です。

期間中は発電所の看板が掛け替えられますが（下図を参照）、第二発電所をアディダス社へ売却したわけではありません。これからも非常時電源役を担い、地域に貢献できる発電所であり続けます。



エコロジア第二太陽光 発電所だより vol.02



発行: 2016年11月12日
株式会社エコロジア
080-5458-1477
<http://www.ecolosia.jp>

目 次

(A面)

- ・期間限定、Adidas発電所始動！
～ネーミングライツ（命名権）の手法で～
- ・気象観測器を設置

(B面)

- ・熊本地震の調査から災害時の太陽光発電所の役割を考える
- ・袖ヶ浦火力発電所新設について
- ・第一発電所の紹介

気象観測器を設置

有吉・井尻地区の最寄りの気象観測所

気象観測装置ウェザーステーションを7月27日に設置しました。

観測できる主要な項目は
気温、結露点、湿度、
風速、瞬間風速、風向、
時間雨量、累積雨量、
気圧、
日射量、UV指数 です。

設置のきっかけは、ご近所の野崎様に今はこういう精密な気象観測装置があることを教えていただいたことでした。



その後色々と調べて、設置場所から離れた場所からもインターネットで現場の情報を見ることができる機種を見つけました。これを、アメリカにあるWeather Underground (<https://www.wunderground.com/>)というサービスに登録して、世界中に観測データを公開できるしくみです。

一番右のグラフは、台風9号が木更津上空を通過した8月22日の観測データです。午後1時34分が最接近時刻で、980.6hpaまで気圧が下がったことなど、興味深い記録が取れました。

以下のホームページにアクセスできれば、有吉、井尻の皆様にとって、気象庁や気象会社の提供するデータより、一番最寄りの地点の5分ごとの最新のデータを知ることができます。英文ですが、簡単な表記ですのでぜひお役立てください。



第二発電所の気象データ（英文）
<http://bit.ly/2boY95h>

台風9号通過時(2016/8/22)

熊本地震の調査から災害時の太陽光発電所の役割を考える



本年4月14日、16日と2度にわたり最大震度7に見舞われた熊本地震における太陽光発電システムの被害状況を調査する第二次調査団に参加しました。6月24~25日に一番被害が酷かった地域のひとつである益城町を訪れました。

写真左上は、ドローンで空撮したものです。2か月以上が経過してもなお、災害がれきの片づけはまだといった状況で、屋根にはたくさんのブルーシートが張られたままでした。写真中央は座屈した家屋上の太陽光パネル、右は「負けんばい」と不屈の闘志を表した民家の張り紙です。激震が2度も襲ったとはいえ、家屋倒壊などの大きな被害は断層に近い帯状の限定された区域に集中していました。

中間報告書は来月にもまとめられる見込みです。

町営の体育館などの大きな避難所では政府や全国の電力会社が手配



袖ヶ浦火力発電所新設について



ご存知ですか？袖ヶ浦に原発2基分の巨大な石炭火力発電所の建設計画が進められていることを。

地球温暖化抑止のため、昨年、画期的なパリ協定が成立しました。世界各国が協調して子供たちの未来のために挑む、タイムリミットぎりぎりの取組みが始まり、これに呼応して、各国は脱石炭と自然エネルギー利用増大を次々と宣言している状況です。それなのに、日本的一部の企業や政府は世界の希望に水を差す石炭火力発電所の新設計画を打ち出している悲しい現実があります。その舞台の1つがなんと袖ヶ浦です。

石炭は燃やすと化石燃料の中でも一番多くCO₂を排出し、天然ガス火力発電(LNG)の約2倍。高効率でクリーンと言われている発電設備(IGCC)でも石油火力と同じくらいのCO₂排出量。これは地球温暖化の面から見ると致命的な量です。それ以外にも、SOx(硫黄酸化物)やNOx(窒素酸化物)などの大気汚染の原因物質も排出し、PM2.5は、中国から飛んでくるだけでなく、石炭火力発電所からも出ます。

大好きな袖ヶ浦を日本の汚点の象徴にされたくない。未来をになう袖ヶ浦やすぐ隣の木更津の子供たちのための環境を守りたい。そう思います。(詳しい情報源⇒ <http://sekitan.jp/home/>)

千葉袖ヶ浦火力発電所1号機(仮)／千葉袖ヶ浦エナジー／袖ヶ浦市
設備容量: 100.0万kW: 運転開始予定: 2025年

千葉袖ヶ浦火力発電所2号機(仮)／千葉袖ヶ浦エナジー／袖ヶ浦市
設備容量: 100.0万kW: 運転開始予定: 2026年

した電源車が活躍し、公的支援が機能しました。被災者全員が大きな避難所に収容できたわけではなく、小さな避難所、空き地等での車中泊では電気や給水、食糧や物資配給など大変不自由したようです。

熊本地震の後、10月21日には最大震度6弱の鳥取地震が発生しています。もういつ関東や東南海に大地震が来てもおかしくないと気を引き締める時節が来たように思います。

万一、これらの地域で発災した場合、被害の範囲から公助は期待しづらく、共助がうまく行くかが明暗を分けると思われます。非常時の際にはお役に立てるよう、第二発電所には有吉公会堂にも運べる蓄電池システムとカートや1トンの雨水タンクも装備されています。使われないことを祈りながらも必要な鍵や使用マニュアルは寺田様にお預けしております。



第一発電所のご紹介

当社第一太陽光発電所は、運転開始後2年を経過しました。

場所は、第二発電所前の道路を東にずっとずっと道なりに進んで、袖ヶ浦に入り、谷中の交差点を過ぎ、永地の丁字路の手前です。



第二発電所と同じ50kW未満の低圧発電所ですが、太陽光パネルの枚数は第二発電所の288枚より少ない240枚=60kWです。

こちらの発電所も第二発電所と同じコミュニティ貢献型の発電所を目指して作りました。60m先の永地公民館へ非常時給電できるよう装備を整えました。

キンモクセイやサツキなどの植栽、緑化はこちらの方が先行しています。第二発電所も追随していく予定です。

エコロジア 第一太陽光発電所

コミュニティ型発電所 <永地公民館へ非常時無償給電>

再生可能エネルギー発電設備 (50kW未満)

所在地 : 千葉県袖ヶ浦市永地1035-1, -2
太陽電池モジュール : 60.0kW (多結晶250W×240枚)
パワーコンディショナ : 49.5kW (三相3線式9.9kW×5台)
年間予想発電量 : 59,550kWh (平均家庭約17軒分)
運転開始日 : 2014年10月15日

協力事業者/アドバイザー (敬称略) :
(株)Looop、施工者 渡邊祐一・和明、(有)鳴海建設、(株)キャムズ、
千葉グリーンセールス(株)、(有)ムヂエンフックトリー松下高弘、
NPO法人 太陽光発電所ネットワーク、伊藤博文、佐山吉孝

連絡先 : 株式会社 エコロジア
www.eclosia.jp
080-5458-1477 (担当:林)

SECURITY CAMERAS
防犯カメラ
作動中